

教育旅行型グリーン・ツーリズムにおける中間組織の役割 —長野県飯田市千代・龍江を事例に—

○富永 真子・土屋 俊幸（東農工大院農）

はじめに

グリーン・ツーリズム（以下、GT）は1980年代から注目されるようになった、地域が主体となって行う、地域振興を目的とする都市農村交流の一形態である。近年、その中でも教育旅行型GTが注目を集めている。しかし教育旅行は一度に大人数を受入れるため、地域内の宿泊施設数・質の確保やプログラムの充実といった基盤強化と各関係者の連携が重要であると同時に、地域が主体となって旅行会社や学校に売り込む手段が必要となってくる。これらを解決する手段として中間組織が考えられる。中間組織とは「旅行会社または学校と地域内の各サービス提供者をつなぐ役割を担い、地域内の各関係者をまとめるコーディネーター機能をもつ組織」と本研究では定義する。

研究の目的と調査地

本研究では地域内の各サービス提供者の事情に合わせて中間組織の機能がどの様に異なるかを分析し、地域にとっての中間組織の役割を明らかにすることを目的とする。調査地は「子ども農山村交流プロジェクト」のモデル地域の中から、株式会社南信州観光公社を受入れの窓口組織にもつ長野県下伊那郡を選定した。当地域の受入れシステムでは、公社から各体験プログラムの受入れ依頼を一括に引き受ける「地域コーディネーター」と呼ばれる団体、個人がいる。本研究では民泊の地域コーディネーターを行政が担う飯田市千代地区、民間団体が担う飯田市龍江地区での事例を検証する。

結果と考察

千代のGTは村おこし活動として始まり、市観光課と協力して受入れ方法を模索してきた。地区全体での取り組みとして広がってきたため、新規の民泊受入れ希望農家にとっても情報収集が容易で参入しやすい。一方、龍江では有志団体による活動から広まったため、一部住民の間でのみ情報共有されていて、新規の受入れ希望農家が参入しにくい仕組みになっている。しかし、公社が新規の受入れ希望農家に対して情報提供を行うことで、住民間での情報共有を補完している。この様に地区のGT活動の特徴に合わせて機能が異なる。

引用文献

- (1) 青木辰治『転換するグリーン・ツーリズム 広域連携と自立を目指して』学芸出版社、2010年、113～117頁
- (2) 佐藤真弓「交流産業」の形成条件」小田切徳美『農山村再生の実践』農文協、2011年、119～144頁

キーワード：グリーン・ツーリズム、教育旅行、中間組織

（連絡先：富永 真子 B0701362@aiu.ac.jp）